

## 第4章 台東区の年間入込観光客数の推計

### 4-1. 上野地区、浅草地区の年間入込観光客数の推計プロセス

年間観光客数の推計プロセスは、表 4.1 に示した Step1～Step4 の順に行うことにするが、単純にこれらの人数を足し合わせて、両地区の年間観光客数とすることには、一般的に次のような課題が残る。

- ① Step1 で求めた平常時の観光客数に対して、「純粹に」上乘せされるイベント入場者数を求めることは難しいため、Step1 と単純に足し合わせることでダブルカウントになる可能性がある。また、イベント入場者数は主催者発表のものを使用しているうえ、「有料」でないイベントの場合は、入場者のカウント方法が標準化されていないため、外数の参考値として集計する。
- ② Step4 の外国人観光客数については、宿泊客を対象にした調査結果および、観光施設の外国人入館者割合のほか、浅草寺におけるカウント調査結果をもとに推計を試みる。なお、Step4 の推計に関する詳細は、次節で述べる。また本報告書では、入込数とは、観光客を含む来訪者数、入込観光客数は来訪後の行動に何らかの観光行動を行った来訪者と区分使用している。

表 4.1 年間観光客数の推計プロセス

プロセス	概要	推計対象		対象地区	
		日本人	外国人	①	②
Step 1 平常時における 年間観光客数の推計	・「平常時」の来訪者行動を示したものであるため、その結果をもとに、平常時における両地区の観光客数を推計する。	○	×	○	×
Step 2 イベント入場者数 (主催者発表)の集計	・主催者発表の数値を用いて、入場者数を集計する。 ・外数として集計する。		○ (区分なし)	○	×
Step 3 宿泊観光客数の推計	・宿泊施設へのヒアリング等により年間宿泊客数を集計する。 ・Step1 に該当しない宿泊客数を推計する。	○	×	○	×
Step 4 年間外国人観光客数 の推計	・宿泊観光客数ならびに、観光施設における外国人入館者割合のほか、浅草寺におけるカウント調査をもとに、年間外国人観光客数を推計する。 * Step4 のみ、次章で詳述する。	×	○	○	×

注；対象地区① 上野・浅草地区、対象地区② 台東区内全域

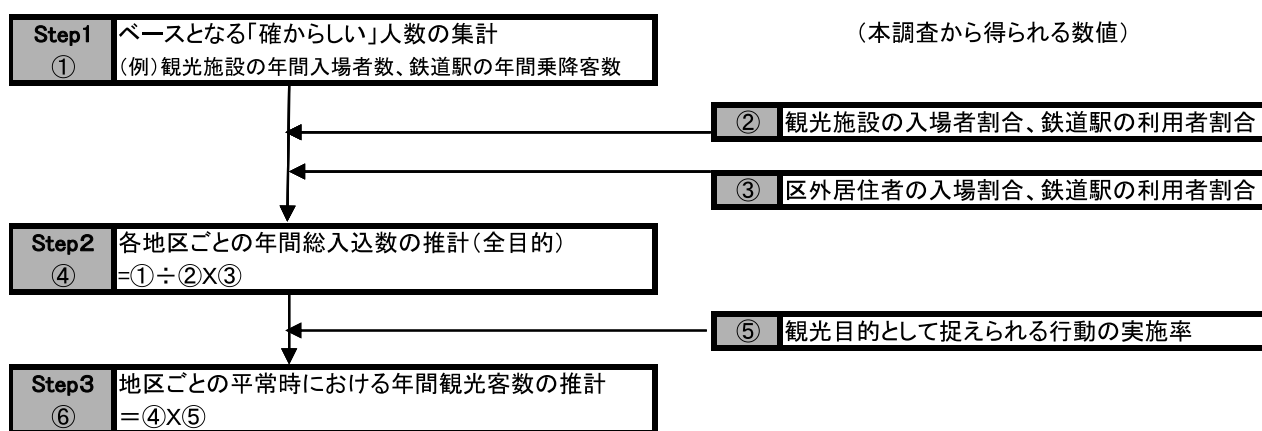
## 4-2. 平常時における年間観光客数の推計

### (1) 推計方法

調査した結果をもとに、平常時における年間観光客数を推計する。図 4.1 に示したように、有料の文化・観光施設の入場者数や、鉄道駅の乗客数・降客数を基準として、その入場者や利用者の割合をカウント調査などで求め、各地区における全目的の「年間総入込数」を求める。

台東区内在住者、在勤者の区内文化・観光施設への移動や来訪は日常の行為・行動とし、平常時における年間観光客数の推計に含めず、台東区外からの来訪者のみを集計対象とした。

図 4.1 平常時における年間観光客数の推計フロー



推計に際し、基準とする「確からしい」人数は、観光地区の特性によって「相性」があると考えられる。本調査では、各地区の文化・観光施設における年間入場者数、各地区の鉄道駅における乗客数・降客数（本調査と、大都市交通センサス<sup>1</sup>）、各地区の歩行者カウント調査の結果から推計、比較分析する。

### (2) 文化・観光施設の年間入場者数に基づく年間総入込数の推計

台東区内の文化・観光施設 42 箇所（うち 1 箇所は通年で休館）に調査票を配布し、平成 22 年（平成 22 年 1 月～12 月）の年間入場者数を調査し、29 箇所から回答を得た。

未回答の施設は、平成 16 年以降に実施した『台東区観光マーケティング調査報告書』の数値を用いた。

上野地区は約 1,060 万人、浅草地区は約 142 万人、その他区内約 6 万人（いずれも延べ数）となり、区内合計は約 1,209 万人である（表 4.2）。

<sup>1</sup>大都市交通センサス:首都圏・中京圏・近畿圏の三大都市圏における、公共交通機関(鉄道・乗合バス・路面電車等)の利用実態を明らかにする調査。各路線・鉄道駅ごとの一日当たりの乗降客数・乗換客数も公開されている。本報告書で用いた数値は、2005 年 10 月(第 10 回)のデータである。

表 4.2 台東区内主要文化・観光施設 年間入場者数

No	地区	観光施設名	区分	平成16年	平成18年	平成20年	平成22年
1	上野（上野公園）	東京国立博物館	国	1,202,496	1,729,463	2,212,967	1,533,563
2	上野（上野公園）	国立科学博物館	国	961,646	1,515,535	1,474,033	2,430,343
3	上野（上野公園）	国立西洋美術館	国	493,192	676,468	1,024,869	735,510
4	上野（上野公園）	東京都美術館	都	3,104,905	2,843,037	2,806,772	735,575
5	上野（上野公園）	旧東京音楽学校奏楽堂	区	31,791	27,685	39,425	22,757
6	上野（上野公園）	上野動物園	都	3,018,354	3,363,786	3,053,317	2,944,015
7	上野（上野公園）	上野の森美術館	民間	—	—	—	—
8	上野（上野公園）	黒田記念館	民間	—	—	—	—
9	上野（上野公園）	東京藝術大学美術館	国	—	—	184,374	536,563
10	上野（上野公園）	芸大奏楽堂	国	—	—	51,303	22,757
11	上野（上野公園）	国際子ども図書館	国	—	—	104,409	174,039
12	上野（上野公園）	東京文化会館	都	—	—	413,494	450,000
13	上野（上野公園）	日本芸術院	国	—	—	27,153	28,000
14	上野	下町風俗資料館	区	77,806	67,851	66,195	69,480
15	上野	付設展示場（吉田屋）	区	—	—	63,266	62,658
16	上野	世界の銀器館	民間	—	—	—	—
17	上野	鈴木演芸場	民間	123,764	—	—	—
18	上野	旧岩崎邸庭園	都	275,573	—	209,992	325,114
19	上野	横山大観記念館	民間	—	—	—	—
	上野地区（小計）			9,625,193	10,554,536	12,239,211	10,600,554
20	浅草（浅草公園）	浅草演芸ホール	民間	—	—	—	—
21	浅草（浅草公園）	東洋館	民間	—	—	—	—
22	浅草（浅草公園）	江戸下町伝統工芸館	民間	—	—	—	—
23	浅草（浅草公園）	花やしき遊園地	民間	—	—	—	—
24	浅草（浅草公園）	木馬館／木馬亭	民間	—	—	—	—
25	浅草（浅草公園）	浅草公会堂	区	—	—	208,628	210,301
26	浅草	太鼓館	民間	—	—	—	—
27	浅草	テプロ浅草館	民間	—	—	—	—
28	浅草	池波正太郎記念文庫	区	46,881	44,888	49,322	63,890
29	浅草	象牙工芸館	民間	—	—	—	—
	浅草地区（小計）			880,009	467,895	1,353,038	1,414,738
30	区内（谷中）	朝倉彫塑館	区	45,700	40,038	38,964	休館
31	区内（谷中）	大名時計博物館	区	6,437	5,580	4,690	5,000
32	区内（根岸）	ねぎし三平堂	民間	—	—	—	—
33	区内（根岸）	書道博物館	区	10,189	9,646	14,436	17,234
34	区内（根岸）	子規庵	民間	—	—	—	—
35	区内（根岸）	硯の資料館	民間	—	—	—	—
36	区内（根岸）	一葉記念館	区	23,908	20,098	24,353	23,583
37	区内（駒形）	エース世界のカバン館	民間	—	—	—	—
38	区内（橋場）	皮革産業資料館	民間	—	—	—	—
39	区内（花川戸）	かわとはきものギャラリー	民間	—	—	—	—
40	区内（柳橋）	日本文具資料館	民間	—	—	—	—
41	区内（浅草橋）	袋物参考館	民間	—	—	—	—
	谷中など（小計）			86,234	143,056	92,299	69,275
	台東区内施設合計						12,084,567

注1: 民間施設においては、入館者数の表示を伏せてあるが加算集計している。

注2: 東京藝術大学美術館は今回調査で拡大集計した。

注3: 斜字は前回の調査からの推計値である。

### コラムⅢ

#### 入込観光客数の推計

日本には多彩な観光地(地区)が存在し、それぞれが異なる個性を持っている。

観光地に来訪する入込観光客数を推計し把握することは、地区の観光振興策にとってきわめて意義が深い。入込観光客数の計測はセンサーカメラによる自動計測から目視による手動計測まで様々な手法が実践され、それぞれの地区がそれぞれの地区に最も適した方法で計測・推計している。例えば山里の温泉地では下車駅やインターチェンジ(ゲートウェイ)が明確であり、その出口入口で来訪者をカウントすることで非常に精度の高い入込観光客数を推計できる。入場料を収受する観光施設では販売した入場券数から集計できる。

このように来訪者の動線が明確な観光地に対し、台東区は都市型観光地である。東側は隅田川で区切られているが、北側・西側・南側はすべて道路1本で他の行政区と隣接している。言い換えれば、隣接区から台東区に道路を横断して来訪すれば、来訪者1名とカウントする。この様に、道路や橋梁を横断して来訪する人を一人ずつ計測することは現実的でない。このような場合、域内で比較的多くの観光客や買い物客が来訪する施設、区域、イベントなどを観光箇所とし、それぞれ来訪者を推計し合算することで全地区の観光客数としている。これは観光庁が平成21年12月に策定した「観光入込客統計に関する共通基準」に、部分的に準拠している推計方法である。

文化・観光施設における年間入場者数の「実数」を導き出すためには、1人の来訪者が一回の訪問につき複数の文化・観光施設に入場している可能性を考慮する必要から、表4.2に示した文化・観光施設のうち、特に入場者の多い施設を対象に来訪者一人あたりの平均立ち寄り箇所を求め、それをフローにしたがって計算、上野・浅草各地区における文化・観光施設の年間入場者数の「実数」を推計した。

結果は上野地区の平均立ち寄り箇所数は1.13、浅草地区は1.21となった(表4.3)。

以上から、文化・観光施設における年間入場者数の実数は、上野地区で738万人、浅草地区で95万人となった。

図4.2 文化・観光施設における年間入場者数(実数)の推計フロー

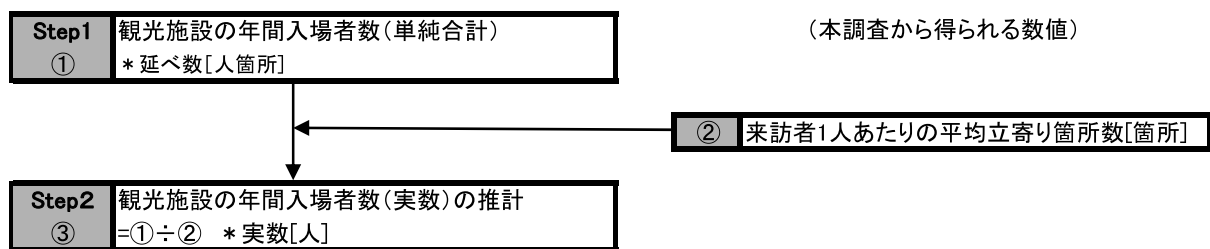


表4.3 文化・観光施設の平均立ち寄り箇所数と年間入場者数実数の推計

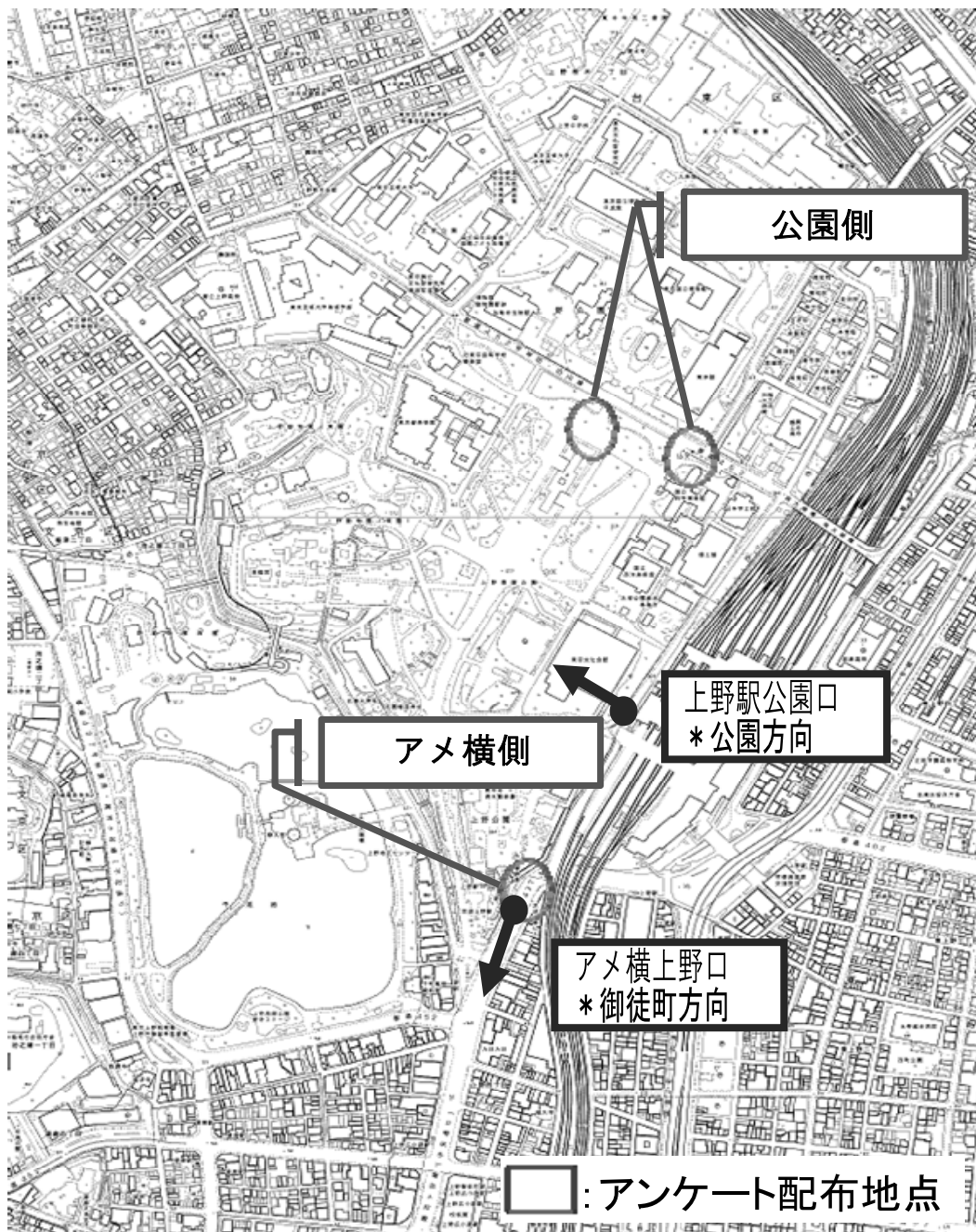
	①延べ数	②箇所数	③実数
上野地区	10,600,554	1.13	9,381,021
浅草地区	1,414,739	1.21	1,169,205
谷中など	69,275	1.13	61,305

次に、各地区における観光施設の立ち寄り率を集計した(表4.4)。上野地区では、来訪者の76.4%が文化・観光施設に入場している一方で、浅草地区は10.6%であった。しかし、上野地区では、公園側とアメ横側に配布箇所が分かれており(図4.3)、双方の回収率が異なることによる回答の偏りが課題である。

表4.4 文化・観光施設の立ち寄り率

①上野地区			
動物園見学	芸術鑑賞	サンプル数	割合
○	○	21	5.6%
○	×	32	8.5%
×	○	235	62.3%
×	×	89	23.6%
○実施 ×非実施			
②浅草地区			
花やしき来園	演芸鑑賞	サンプル数	割合
○	○	2	0.6%
○	×	13	4.1%
×	○	19	5.9%
×	×	286	89.4%
○実施 ×非実施			

図 4.3 アンケート票配布地点・歩行者カウント調査地点



本調査では、平成22年3月と9月の平休日各1日に実施した「上野駅公園口（公園方向）」と「アメ横上野口（御徒町方向）」の歩行者カウント調査結果（表4.5）に基づき、歩行者交通量の比率を算出し、「アメ横上野口」を訪れた回答に「ウェイト」をかけた。

歩行者交通量調査は、いずれも10～18時までの時間帯で行われており、来訪者アンケート調査の実施時間帯とほぼ同様である。

来訪者調査の結果、「上野駅公園口」を訪れたのは331件、「アメ横上野口」を訪れたのは76件であった。この比率を歩行者交通量比率（上野駅公園口（68,335人）とアメ横上野口（52,452人））に合わせるためには、「アメ横上野口」を訪れた回答について、1人あたり3.3倍のウェイトをかけた（1人を3.3人として扱う）。

表 4.5 上野駅公園口・アメ横上野口における歩行者交通量

月日	曜日	上野駅公園口	アメ横上野口
3月7日	日	18,638	13,476
3月17日	水	26,565	15,058
9月10日	金	7,899	7,934
9月12日	日	15,233	15,984
合計		68,335	52,452
比率		56.6%	43.4%
回答数		331	76
分析時のウェイト		1	3.3

ウェイト付加後の上野地区における観光施設の立ち寄り率を集計し、文化・観光施設に入場する来訪者割合は66.2%とした（表4.6）。

表 4.6 文化・観光施設の立ち寄り率（上野地区・ウェイト付加後）

①上野地区（広小路口サンプル・ウェイト付加後）			
動物園見学	芸術鑑賞	回答数	割合
○	○	27.9	5.1%
○	×	43.5	7.9%
×	○	292.5	53.2%
×	×	185.9	33.8%

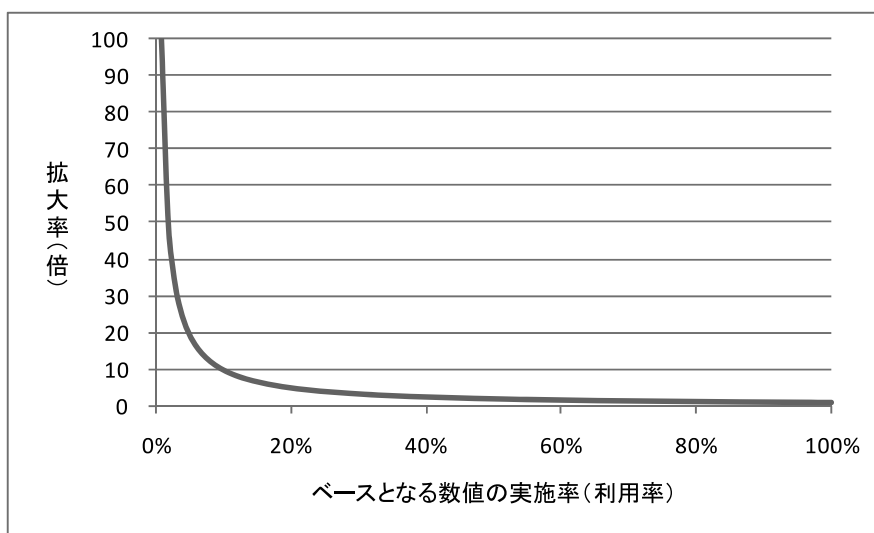
○実施 ×非実施

なお、観光施設に立ち寄る来訪者のうち、台東区民以外の割合は、上野地区では98.6%（ウェイト付加後）、浅草地区では94.1%であった。

文化・観光施設への立ち寄り率が低い地区で、文化・観光施設の年間入場者数をベースに全目的の年間総入込数を求めようとする場合、年間入場者数に高い拡大率を乗じて、年間総入込数を推計することが必要となる（図4.4）。そのため、推計誤差が生まれやすくなり（ベースとなる数値の実施率（この場合は、観光施設への立ち寄り率）が1%でも現象すると拡大率が大きく増加し、年間総入込数が数十～数百万人も増えてしまう）、ベースとする数値としてふさわしくないことになる。

そこで上野地区では、文化・観光施設の年間入場者数をベースに観光客数の推計を試みる適性は高いが、浅草地区ではふさわしくない。

図 4.4 ベースとなる数値の実施率と拡大率との関係



「年間総入込数」:

「文化観光施設における年間入場者数」を基準に推計。

上野地区:

830万261人（観光施設年間入場者数）÷ 0.662（観光施設の立ち寄り率）  
× 0.986（台東区民以外の割合）= 1,236万8,181人

浅草地区:

大きな拡大率を要するため、本手法による推計は誤差が過大であり、本調査にはふさわしくない。



(3) 鉄道駅における年間降客数に基づく年間総入込数の推計

推計に際し、上野・浅草各地区の来訪者が利用する交通手段を整理した。来訪者調査で得られた、上野・浅草地区に「到着した際」に利用していた交通手段を集計した(表4.7)。

上野地区では全体の91.1%、浅草地区では56.7%が鉄道を利用して、それぞれの地区を訪れている。

表4.7 各地区到着時の利用交通手段

到着時交通手段	上野地区		浅草地区	
	N	割合	N	割合
1. 鉄道	339	91.1%	178	56.7%
2. 路線バス(都営バス)	4	1.1%	11	3.5%
3. 観光バス(ほとバス・貸切バス)	4	1.1%	77	24.5%
4. 水上バス	0	0.0%	8	2.5%
5. タクシー	1	0.3%	9	2.9%
6. 自動車(レンタカー含)	8	2.2%	12	3.8%
7. 自動二輪・原付バイク	0	0.0%	0	0.0%
8. 自転車	2	0.5%	3	1.0%
9. 徒歩	14	3.8%	14	4.5%
10. その他	0	0.0%	2	0.6%
総計	372	100.0%	314	100.0%

各地区に鉄道を利用して到着した来訪者の利用鉄道駅を集計した(表4.8)。

上野地区では、JR線をはじめとした「上野駅」の合計で90.5%を占めた一方、浅草地区でも、つくばエクスプレスを含めた「浅草駅」の合計で94.2%を占める結果となった。

したがって、上野地区の来訪者が上野駅で降車する割合ならびに、浅草地区の来訪者が浅草駅で降車する割合はそれぞれ以下の通りである。

- ・上野地区；  $0.911$  (鉄道利用割合)  $\times$   $0.905$  (上野駅利用割合) =  $0.824$
- ・浅草地区；  $0.567$  (鉄道利用割合)  $\times$   $0.942$  (浅草駅利用割合) =  $0.534$

それぞれの鉄道駅で降車する割合が過半を占めており、両駅の年間降客数に基づき各地区の年間総入込数を推計する妥当性が確認できる。

表4.8 各地区到着時の利用鉄道駅

①上野地区				②浅草地区			
駅名		N	割合	駅名		N	割合
上野駅	JR東日本(山手線等)	246	73.0%	浅草駅	東京地下鉄(銀座線)	97	56.1%
	東京地下鉄(銀座線)	26	7.7%		東京都交通局(浅草線)	36	20.8%
	東京地下鉄(日比谷線)	16	4.7%		東武鉄道	20	11.6%
	京成電鉄	17	5.0%		つくばエクスプレス	10	5.8%
<b>上野駅(小計)</b>		<b>305</b>	<b>90.5%</b>	<b>浅草駅(小計)</b>		<b>163</b>	<b>94.2%</b>
御徒町駅(JR東日本)		9	2.7%	その他		10	5.8%
上野広小路駅(東京地下鉄(銀座線))		1	0.3%	合計		173	100.0%
仲御徒町駅(東京地下鉄(日比谷線))		1	0.3%				
上野御徒町駅(東京都交通局(大江戸線))		10	3.0%				
新御徒町駅(つくばエクスプレス)		0	0.0%				
その他		11	3.3%				
合計		337	100.0%				

① 上野駅における年間降客数

はじめに、上野駅の年間降客数を集計・推定する。基準となるデータに関東広告協議会『関東交通広告協議会・各社・各駅乗降人員・通過人員・輸送人員』に示された平成 21 年度の一日平均降客数（定期外）（表 4.9）を使用する。来訪者調査の配布時間帯（各日 10 時～18 時）は、上野駅の降客に定期券利用者（主として通勤・通学客）はほとんど含まれないと考えられ、普通券利用者（定期外利用者）のみを対象にして分析する。また、上野駅は多くの路線が乗り入れており、乗換駅でもあるので、乗換実態は、前回調査（平成 20 年度）と同様に、平成 17 年度に実施された「大都市交通センサス」によると、上野駅を乗換駅としている割合が 81.2%を占めている<sup>2</sup>。

同時に、上野駅の降客数のなかには、区内居住者も含まれていると考えられ、「大都市交通センサス」のデータから、上野駅から乗車（初乗り）する人数を求めた結果、降客数に対して 6.8%のウェイトを持つ。

すなわち、この部分が降客数に占める上野地区の居住者割合になると推測する。

② 浅草駅における年間降客数

浅草駅についても上野駅と同様、関東広告協議会『関東交通広告協議会・各社・各駅乗降人員・通過人員・輸送人員』に示された平成 21 年度の一日平均降客数（定期外）を用いた（表 4.9）。

また、平成 17 年度に実施された「大都市交通センサス」の結果、浅草駅でも降客数の 43.8%（つくばエクスプレス（TX）を除く）が他路線への乗換客である。上野駅と同様に、降客数のなかには、区内居住者も含まれていると考えられるが、同様に「大都市交通センサス」のデータから、浅草駅から乗車（初乗り）する人数を求めた結果、降客数に対して 30.1%のウェイトを占めることが分かった。

すなわち、この部分が降客数に占める浅草地区の居住者割合になると推測できる。

表 4.9 上野駅・浅草駅降客数（平成 21 年度）

①上野駅			②浅草駅		
路線名	定期外降客数	対前年度比	路線名	定期外降客数	対前年度比
JR東日本（山手線等）	90,258	-2.0%	東京地下鉄（銀座線）	28,562	-1.7%
東京地下鉄（銀座線）	38,859	-3.6%	東京都交通局（浅草線）	12,613	-1.1%
東京地下鉄（日比谷線）	26,207	-2.8%	東武鉄道	13,949	-5.1%
京成電鉄	12,605	-1.0%	つくばエクスプレス*	4,912	—
<b>合計</b>	<b>167,929</b>		<b>合計</b>	<b>60,036</b>	

\*つくばエクスプレスに関しては、同社へのヒアリングに基づく実績（定期降客数を含む）に、東京都統計年鑑より得られた同駅の定期外比率（64.7%；平成20年度実績）を乗じた値。

<sup>2</sup>乗換客の割合(81.2%)は定期券利用者に限定した数値であるが、ここでは普通券利用者も同じ割合であると仮定している。

上野・浅草地区別「年間総入込数」:

「鉄道駅における年間降客数」を基準に推計。

上野地区:

$$167,929 \text{ 人 (一日あたり降客数)} \times (1-0.812 \text{ (上野駅における乗換率)}) \\ \times 365 \text{ (年間日数)} \div 0.824 \text{ (上野地区の来訪者が上野駅で降りる割合)} \\ \times (1-0.068 \text{ (降客数に占める上野地区の居住者割合)}) = \underline{1,303 \text{ 万 } 3,621 \text{ 人}}$$

浅草地区:

$$55,124 \text{ 人 (一日あたり降客数 (TXを除く))} \times (1-0.438 \text{ (浅草駅における乗換率)}) + \\ 4,912 \text{ 人 (TXの降客数)} = \textcircled{1} \text{ (一日あたり降客数)} \\ \textcircled{1} \times 365 \text{ (年間日数)} \div 0.534 \text{ (浅草地区の来訪者が浅草駅で降りる割合)} \\ \times (1-0.301 \text{ (降客数に占める浅草地区の居住者割合)}) = \underline{1,714 \text{ 万 } 8,362 \text{ 人}}$$

用語解説

\* 年間入込数 : 来訪者数 = 総来訪者数

\* 年間入込観光客数 : 区外から来訪し、  
観光行動を実行した人数

(4) 歩行者カウント調査に基づく年間総入込数の推計

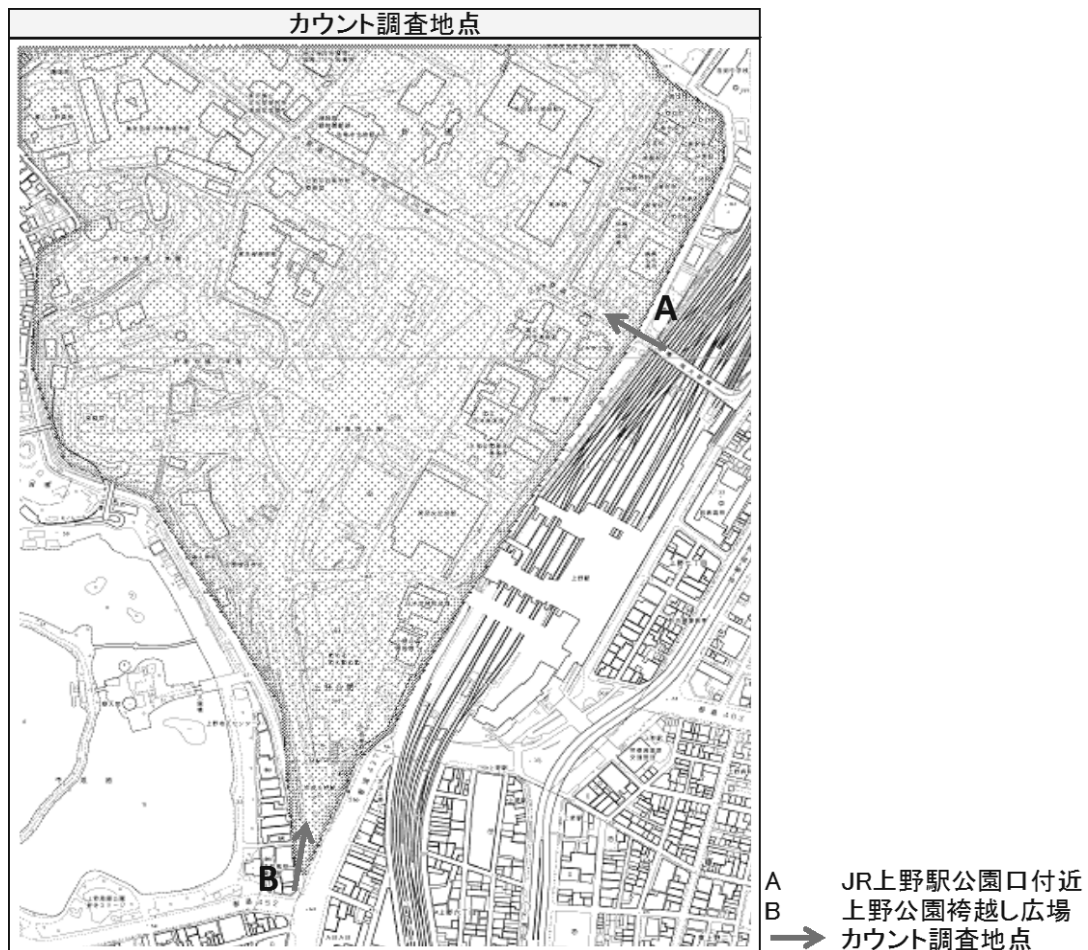
上野・浅草各地区で実施した歩行者カウント調査結果に基づいて、年間総入込数を推計する。

① 上野地区

上野地区については、上野駅公園口付近および上野公園袴腰広場を対象に、平成 22 年 3 月と 9 月の平休日各 1 日で実施した歩行者カウント調査結果から年間総入込数を推計する。

上野地区における歩行者カウント調査地点を図 4.5 に示した。調査地点 A、B ともに上野公園（図中網掛けのエリア）に入場する方向（矢印の方向）を指しており、歩行者交通量の合計値を上野公園の一日入場者数として計算する、なおカウント調査は、各日とも 10 時～18 時の間である。

図 4.5 上野地区の歩行者カウント調査地点



各日の歩行者カウント調査結果を整理したものを表 4.10 に示した。同調査結果は 4 日間のデータであり「年間」の歩行者数に拡大し、上野地区における年間総入込数を求める。

表 4.10 歩行者カウント調査結果（上野公園）

月日/曜日	上野公園方面歩行者交通量(10～18時)			センターモール
	上野駅公園口周辺	上野公園袴越広場	合計	方向①(全日)
3月 17日 水	26,565	7,702	34,267	13,491
3月 7日 日	18,638	3,572	22,210	14,455
9月 10日 金	7,899	3,743	11,642	12,847
9月 12日 日	15,233	7,804	23,037	17,223
年間合計(H22.1.1～H22.12.31)				5,229,014

方向①; 上野駅方面からセンターモールへの入場者数

上野駅公園口側と広小路口側での回答の偏りを補正するための根拠として用いた、上野センターモールの歩行者交通量から、上野公園方面の年間歩行者交通量を推計する。

上野公園方面歩行者交通量（合計）と、上野センターモールの歩行者交通量の散布図（図 4.6）を作成し、双方の相関を求めたうえで、センターモールの交通量から上野公園の交通量を推計する単純回帰モデルを構築した。なお、3月17日のデータ（斜体文字）に関しては、上野駅公園口周辺の歩行者交通量のみが極端に多いことから対象から除外した（修学旅行等の団体旅行者が集中したと考えられる）。

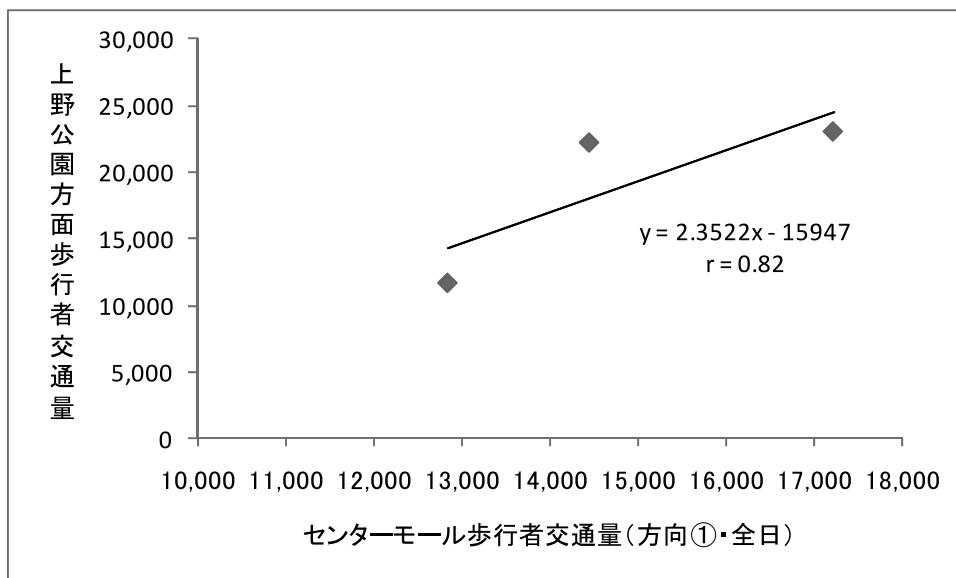
両者の相関は  $r=0.82$  と一定の水準を保っており、以下の回帰モデルを構築する（1式）。

$$Y = 2.3522X - 15947 \quad (1)$$

Y 上野公園方面歩行者交通量（合計）

X 上野センターモールの歩行者交通量（方向①・全日）

図 4.6 歩行者交通量の散布図（上野地区）



回帰モデル（1式）を用いて、上野公園方面の年間歩行者交通量を推計する。

$$2.3522 \times 5,229,014 \text{ 人 (センターモール年間交通量)} - 15947 = 1,228 \text{ 万 } 3,739 \text{ 人}$$

上野公園の入場口に関しては、図 4.5 に示した A（上野駅公園口）と B（袴腰広場）が主であるが、観光バスや乗用車を利用する場合は上野公園恩賜駐車場から直接入場する。同駐車場における 2010 年中の駐車台数は、駐車場の管理者（財）東京都道路整備保全公社の集計によると、年間車両駐車台数は 90,662 台で、車種別（普通車、大型車・バス、バイク）集計した（表 4.11）。

年間の車両台数に、日本観光協会『全国観光客数統計』で示された車種別の平均乗車人数<sup>3</sup>を乗じて、同駐車場を経由した総入込数を推計した（表 4.11）結果、99 万 9,457 人である。

表 4.11 上野公園恩賜駐車場を経由した総入込数の推計

区分	台数 ①	平均乗車 人数 ②	推計人数 ③=①×②	摘要
普通車	52,912	3	158,736	『全国観光客数統計』表2-4-2「普通乗用車」を適用
大型車・バス	20,589	40	823,560	『全国観光客数統計』表2-4-2「観光バス」を適用
バイク	17,161	1	17,161	『全国観光客数統計』表2-4-2「オートバイ・自転車」を適用
計	90,662		999,457	

次に、上野地区の総入込数に対する上野公園の入場者数割合について、来訪者調査結果を用いて推計した。文化・観光施設の入場に加えて、「散策」の実施率を「アメ横側」の回答数に 3.3 倍の「ウェイト」を付加して計算した（表 4.12）。

集計結果では観光施設への入場と散策のいずれも実施しない来訪者は 9.2%、観光施設に入場せず、散策のみ実施した来訪者は 24.6%である。散策の大部分は、上野公園内で行われていると推測されるが、「アメ横」等の商店街で購買を伴わなかった来訪者も含まれていると考えられる為、上野駅公園口とアメ横上野口の歩行者交通量比率を用いて配分した（表 4.5）。①総入込数（100%）から、観光施設への入場と散策のいずれも実施しない来訪者割合（9.2%）に加え、②散策のみを行った来訪者（24.6%）のうち 43.4%（アメ横上野口の歩行者比率）が上野公園を散策していないと推測する。したがって、上野地区の総入込数に対する上野公園の入場者数割合は、

$$100\% - 9.2\% - (24.6\% \times 43.4\%) = 80.2\% \text{ である。}$$

表 4.12 観光施設入場・散策の実施率（上野地区）

①上野地区（ウェイト付加後）

観光施設入場	散策実施	サンプル数	割合
○	○	262.1	47.7%
○	×	101.8	18.5%
×	○	135.3	24.6%
×	×	50.6	9.2%

○実施 ×非実施

なお、来訪者全体に占める台東区民以外の割合は、広小路口側の回答に対するウェイト付加後 98.9%であった。

<sup>3</sup>日本観光協会（1996）「全国観光統計基準」, pp.29-31.

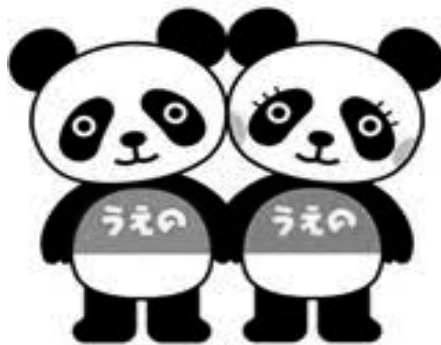
上野地区年間入込客数：

歩行者カウント調査を基準に推計

上野地区：

1,228万6,273人（上野公園方面の年間歩行者交通量）+ 99万9,457人（上野公園恩賜駐車場を經由した入場者数）= ①（上野公園の総入込数）

① ÷ 0.802（上野地区の総入込数に占める上野公園の入場者数割合）× 0.989（台東区民以外の来訪者比率）= 1,638万3,524人



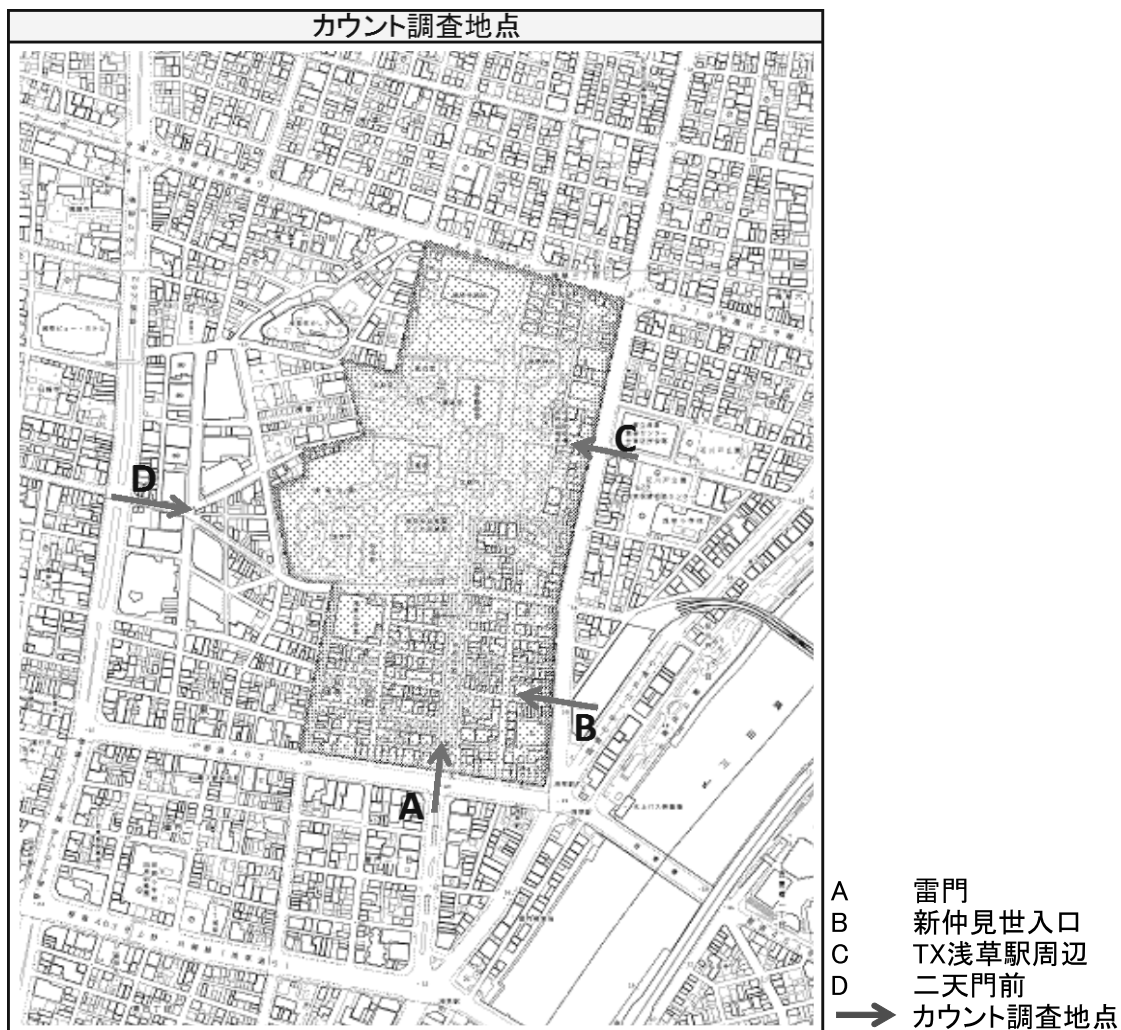
## ② 浅草地区

浅草地区については、雷門、新仲見世入口、つくばエクスプレス（TX）浅草駅周辺、二天門前の計4箇所を対象に、平成22年3月と9月の平休日各1日で実施した歩行者カウント調査結果をもとに、年間総入込数を推計する。

図4.7に、浅草地区における調査地点を示している。調査地点A～Dでは、いずれも浅草寺エリア（図中網掛けのエリア）に入場する方向（矢印の方向）で歩行者数を計測しており、その合計値を浅草寺の一日入場者数として考えた。

歩行者カウント調査は、各日とも9時～17時の間である。

図4.7 浅草地区の歩行者カウント調査地点



各日の歩行者カウント調査結果を表4.13に整理したが、同調査結果は、4日間のデータであるため、それを「年間」の歩行者交通量に拡大し、浅草地区の年間総入込数を求めた。



表 4.13 歩行者カウント調査結果（浅草寺）

月日/曜日	浅草寺方面歩行者交通量(9~17時)					合計	水上バス 乗船者数
	雷門	新仲見世入口	TX浅草駅周辺	二天門前			
3月 17日 水	14,826	6,792	2,726	3,419	27,763	633	
3月 7日 日	20,334	10,370	7,312	4,917	42,933	657	
9月 10日 金	10,523	6,151	2,704	5,087	24,465	882	
9月 12日 日	23,968	11,263	8,953	8,267	52,451	1,493	
年間合計(H22.1.1~H22.12.31)							501,615

「水上バス」は、日の出棧橋、お台場から浅草が終着地点で、旅客船としての特性から乗船客数は正確である。その「水上バス」の下船人数（乗船者数）と、浅草寺方面の歩行者交通量の散布図（図 4.8）を描き、相関を求めたうえで、水上バスの乗船者数から浅草寺方面の歩行者交通量を推計する単純回帰モデルを構築した。

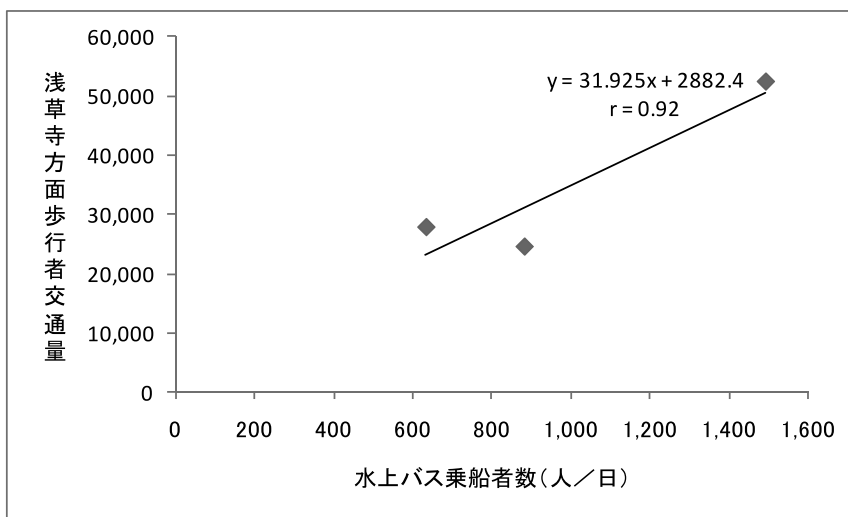
なお、歩行者交通量が他の調査日に比べて高い半面、水上バスの乗船者数が少ない3月7日を特異日（斜体文字）として除外し、分析した結果、両者の相関は  $r=0.92$  と一定の水準を保っており、以下の回帰モデルが構築された（2式）。

$$Y = 31.925X - 2882.4 \quad (2)$$

Y 浅草寺方面歩行者交通量（合計）

X 水上バス乗船者数

図 4.8 歩行者交通量の散布図（浅草地区）



回帰モデル（2式）を用いて、浅草寺方面の年間歩行者交通量を推計する。

$$31.925 \times 501,615 \text{ 人 (水上バス年間乗船者数)} + 2882.4 = 1,601 \text{ 万 } 1,694 \text{ 人}$$

次に、浅草地区の総入込数に対する浅草寺の入場者数割合について、来訪者調査結果を用いて推計する。さらに文化・観光施設の入場に加えて、「寺社参拝」および「散策」の実施率を推計した（表 4.14）。

表 4.14 観光施設入場・散策の実施率（浅草地区）

②浅草地区

観光施設入場	寺社参拝	散策実施	サンプル数	割合	
○	○	○	23	7.2%	95.0%
○	○	×	6	1.9%	
○	×	○	2	0.6%	
○	×	×	3	0.9%	
×	○	○	198	61.9%	
×	○	×	50	15.6%	
×	×	○	22	6.9%	
×	×	×	16	5.0%	

上記から観光施設への入場、寺社参拝、散策のいずれも実施しない来訪者は5.0%であることから、浅草地区の総入込数に対する浅草寺への入場者数割合は95.0%と推測する。

加えて、来訪者全体に占める台東区民以外の割合は、97.8%である。

浅草地区年間入込客数：

「歩行者カウント調査」基準に推計

浅草地区：

1,601万1,694人（浅草寺方面の年間歩行者交通量） ÷ 0.950（浅草地区の総入込数に占める浅草寺の入場者数割合） × 0.978（台東区民以外の来訪者比率） = 1,648万3,617人

(5) 平常時における年間観光客数の推計

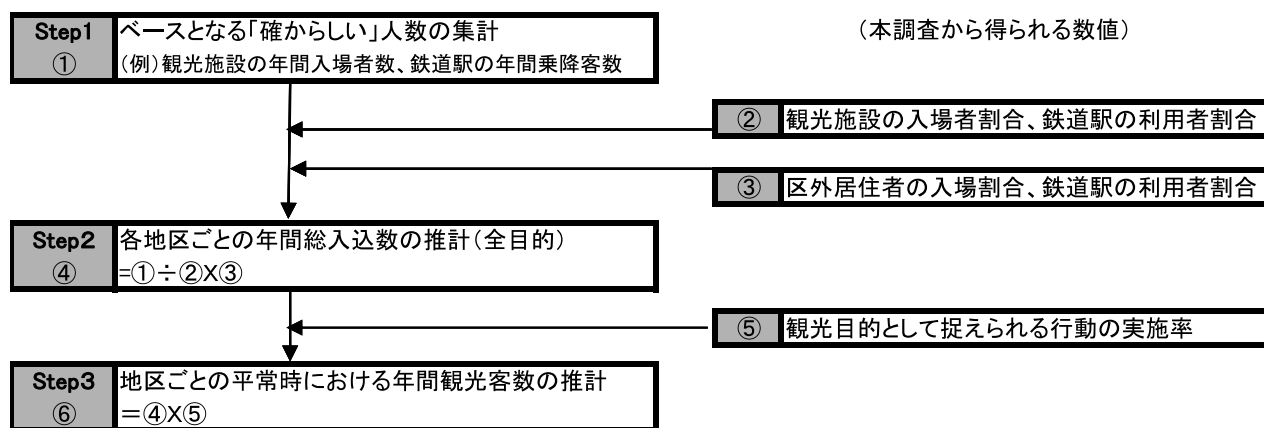
上野・浅草各地区の年間総入込数を文化・観光施設、鉄道駅の降客数、歩行者交通量、それぞれの基準で推計した（表 4.15）。

表 4.15 各地区における年間総入込数の推計値（図 4.9 に示した年間観光客数の推計フローのうち Step2）

	年間総入込数（推計値）	
	上野地区	浅草地区
①観光施設の年間入場者数に基づく推計	1,236万8,181人	—
②鉄道駅における年間降客数に基づく推計	1,303万3,621人	1,714万8,362人
③歩行者交通量に基づく推計	1,638万3,524人	1,648万3,617人

次に、観光目的として捉えられる行動の実施率を集計する。

図 4.9 平常時における年間観光客数の推計フロー（再掲）



観光目的として捉えられる行動の実施率について、本調査では以下の通り定義する。

**観光の定義**

観光施設への入場をした来訪者、または（かつ）、「意図ある消費行動」（自分で「行きたいと思った店」で「買いたい（飲食したい）もの」を購入した）を実施した来訪者、または（かつ）、浅草地区に限り、寺社参拝を行った来訪者

以上の要件に該当する割合（実施率）を示したのが表 4.16 である。上野地区では年間総入込数の 85.9%、浅草地区では年間総入込数の 94.2%が該当すると推計された。

表 4.16 観光目的として捉えられる行動の実施率

①上野地区(ウエイト付加後)

文化・観光施設入場	意図ある、消費行動	寺社参拝	回答数	項目別割合	観光目的
はい	はい	いいえ	154.7	28.6%	85.9%
はい	いいえ	いいえ	204.2	37.7%	
いいえ	はい	いいえ	106.4	19.6%	
いいえ	いいえ	いいえ	76.5	14.1%	

②浅草地区

文化・観光施設入場	意図ある、消費行動	寺社参拝	回答数	項目別割合	観光目的
はい	はい	はい	15.0	4.8%	94.2%
はい	はい	いいえ	2.0	0.6%	
はい	いいえ	はい	12.0	3.8%	
はい	いいえ	いいえ	3.0	1.0%	
いいえ	はい	はい	13.5	43.3%	
いいえ	はい	いいえ	20.0	6.4%	
いいえ	いいえ	はい	107.0	34.3%	
いいえ	いいえ	いいえ	18.0	5.8%	

両地区の平常時における年間観光客数を下記の通り推計した。

以上を整理すると、両地区の平常時における年間観光客数は、以下の通り推計出来る。

上野地区：

1,236万8,181人 × 0.859 ≒ 1,062万人

【前回調査(平成20年)参考】1,057万人 ～ 1,468万人

浅草地区：

1,714万8,362人 × 0.942 ≒ 1,615万人

【前回調査(平成20年)参考】1,073万人 ～ 1,158万人

本調査では平成20年度調査と整合性を図り、③歩行者交通量(カウント調査)に基づく推計数字を採用する。

	年間総入込数(推計)		総入込数に対する観光実施人数の比率	
	上野地区	浅草地区	上野地区	浅草地区
①文化・観光施設の年間入場者数に基づく推計	12,368,181	-	85.9%	94.2%
②鉄道駅における年間降客数に基づく推計	13,033,621	17,148,362	11,195,880	16,153,757
③歩行者交通量(カウント調査)に基づく推計	16,383,524	16,483,617	14,073,447	15,527,567

#### 4-3. イベント入場者数の集計

平成 22 年（1 月～12 月）に開催されたイベントの入場者数について、主催者発表に基づき整理した（表 4.17）。\*印のイベントは、入場者数が非公表であるが、合計には含めている。

表 4.17 イベント入場者数（平成 22 年）

	イベント名	平成22年
上野	入谷朝顔まつり	300,000
	谷中まつり	60,000
	冬ぼたん祭り	*
	ぼたん祭り	*
	上野夏祭りパレード	120,000
	うへの桜まつり	1,608,042
	<b>上野地区小計</b>	<b>2,446,416</b>
浅草	初詣三ヶ日（浅草寺）	2,690,000
	*江戸流しびな	*
	桜橋花祭り	131,500
	浅草流鏑馬	23,000
	泣き相撲	1,500
	三社祭	1,270,000
	*隅田公園桜祭り	*
	下町七夕まつり	370,000
	隅田川花火大会	952,000
	浅草サンバカーニバル	500,000
	東京時代まつり	410,000
	*靴のめぐみ祭り	*
	*はきだおれ市	*
	*浅草菊花展	*
	*浅草寺ほおづき市	*
	*酉の市	*
	浅草今昔展	実施しない
	奥山風景	実施しない
	にぎわいうオーキング	実施しない
	絵馬展（浅草寺）	実施しない
	したまちコメディ映画祭	90,257
	したまち演劇祭	23,678
	羽子板市	300,000
<b>浅草地区小計</b>	<b>9,261,935</b>	

#### 地区毎、イベント来場者数の経年比較

	平成20年度	平成22年度	増減	事由
上野地区	2,330,259	2,446,416	116,157	微増
浅草地区	13,214,117	9,261,935	-3,952,182	今昔展、奥山風景で281万人減。
合計	15,544,376	11,708,351	-3,836,025	

尚、平常時の観光客数との重複カウントがあり得る、計測方法は未統一である。

## 参考：上野・浅草各地区における来訪経験

### (1) 上野地区

来訪者調査の結果、上野地区では、初回の来訪者が全体の1割程度であり、4人に1人が10回以上の来訪頻度であった（図1）。

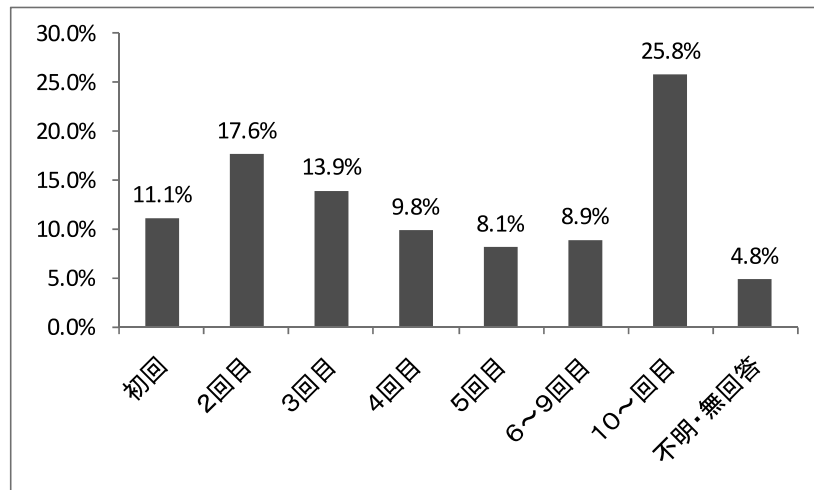


図1 上野地区来訪者の来訪経験

### (2) 浅草地区

来訪者調査の結果、浅草地区では、初回の来訪者が全体の4割強であった（図2）。

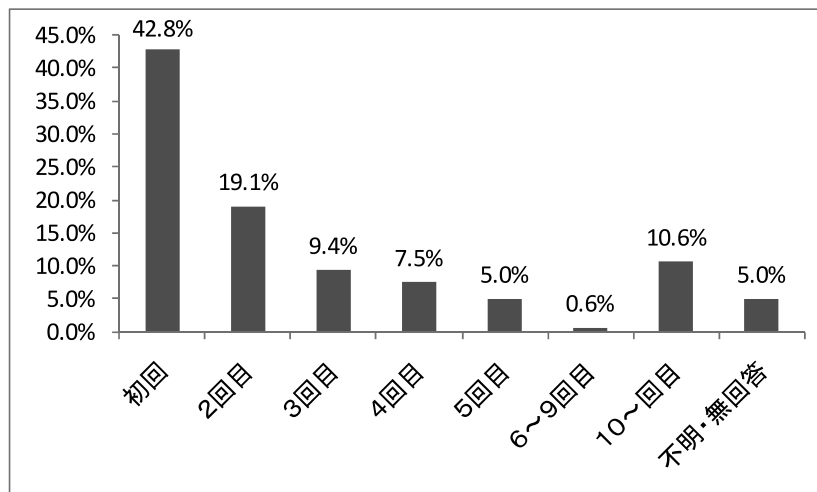


図2 浅草地区来訪者の来訪経験

#### 4-4. 宿泊観光客数の推計

平成 22 年度の調査より、調査対象を「台東区ホテル旅館協会加盟員」に加え、複数の宿泊予約代行サイトに掲載登録している協会非加盟の宿泊施設や、城北旅館組合でかつ台東区内の一部施設に調査協力を頂き調査範囲を拡大しました。したがってデータの活用の際や、経年比較する場合等に単純比較することはできませんのでご注意ください。

##### (1) 年間宿泊観光客数の推計フロー

年間宿泊観光客数の推計フローは下記の通りである（図 4.10）。

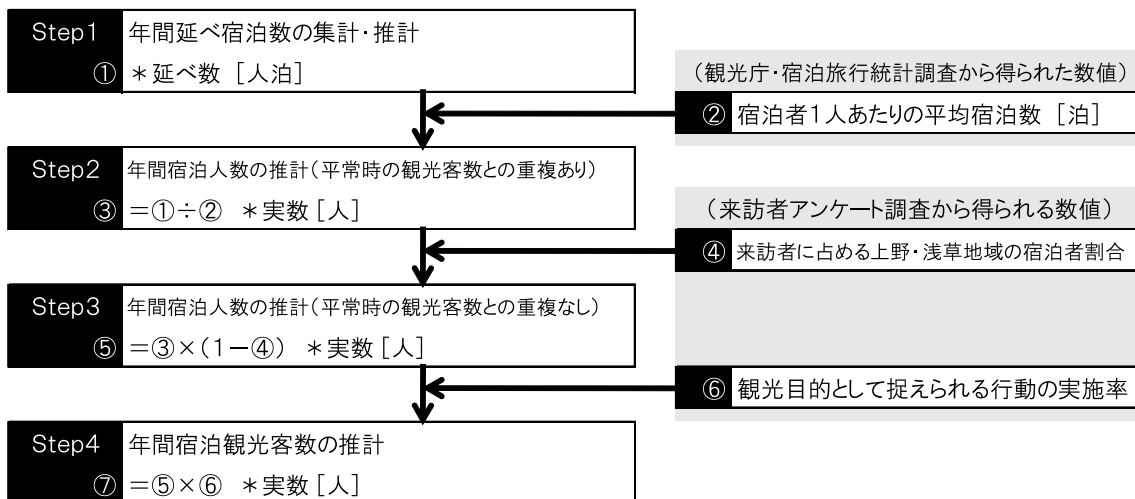
Step1：宿泊施設への宿泊者状況の調査を実施し、年間延べ宿泊数を集計・推計する。

Step2：観光庁『宿泊旅行統計調査』結果に基づき、宿泊者 1 人あたりの平均宿泊数を求め、Step1 で得た延べ宿泊数を平均宿泊数で割ることで年間宿泊人数の実数を推計する。

Step3：本区の調査の結果をもとに、来訪者に占める上野・浅草地区の宿泊者割合を求め、上野・浅草地区を訪れていない年間宿泊人数を推計する。

Step4：観光目的として捉えられる行動の実施率を乗じて、年間宿泊観光客数を推計する。

図 4.10 年間宿泊観光客数の推計フロー



##### (2) 年間延べ宿泊数の集計

調査の対象とした宿泊施設を表 4.18 に示した。このうち、上野地区では 74.1%、浅草地区では 67.5%の回収率であった（回収率の計算は、各宿泊施設への調査に基づき推計した収容人数を基準に計算しており、調査に協力いただいた宿泊施設件数ではない）。

回収できた宿泊施設の年間延べ宿泊人数（日本人のみ；外国人については次節で集計・推計する）は、上野地区では 609,665[人泊]、浅草地区では 498,029[人泊]でこの集計結果に回収率を乗じて未回収宿泊施設を含めた、日本人年間延べ宿泊人数を推計する。

※上野地区 609,665 [人泊] ÷ 0.741 = 822,759 [人泊]

※浅草地区 498,029 [人泊] ÷ 0.675 = 737,820 [人泊]

前回（平成 20 年）調査と比較して、台東区では、ホテルの新設（リニューアル）が相次いだ。

表 4.18 平成 22 年（1～12 月）宿泊客数（上野地区）

宿泊施設名		収容人数 推定	宿泊者数 日本人	宿泊者数 外国人	宿泊者数 合計	回答率	外国人 宿泊割合						
上野地区	ホテルセレッソ	5,139	187,525	65,592									
	水月ホテル鷗外荘												
	きぬやホテル												
	ホテル観月荘												
	上野ファーストシティホテル												
	ビジネスホテル福寿												
	ホテル丸谷												
	ホテル松本												
	ホテル福屋												
	ホテルニューウエノ												
	ホテルアスティル上野												
	ツーリストホテル												
	上野東金屋ホテル												
	ビジネスホテル山百合												
	ビジネスホテルやなぎや												
	上野ターミナルホテル												
	NEW伊豆ホテル												
	ホテルニュー東北												
	テサンホテル上野												
	入谷アーバンホテル												
	ホテルパークサイド												
	アネックス勝太郎旅館												
	桜旅館												
	澤の屋旅館												
	山中旅館												
	旅館勝太郎												
	小松屋旅館												
	きぬや本館												
	きぬやホテル												
	ホテル小松												
	ツクバホテル												
	三井ガーデンホテル上野							411,379		130,572			
	ココ・グラン上野不忍												
	Cube Hotel Ueno Express												
ホテルレインボー													
ホテルサードニックス上野													
ウィークリーマンション東上野													
スーパーホテル上野・御徒町													
ヴィラフォンテーヌ上野													
サットンブレイスホテル上野													
ホテルニューグリーン御徒町													
ホテルパインヒル上野													
入谷ステーションホテル													
ホテルリブマックス東上野													
ホテル朱鷺													
ホテルサンターガス上野店													
御徒町ステーションホテル													
オークホテル													
ホテルシャーウッド													
カンデオホテルズ上野公園													
ホテルブーゲンビリア三ノ輪													
スーパーホテルJFR上野入谷口													
ニューパークホテル													



表 4.18 平成 22 年（1～12 月）宿泊客数（浅草地区）

宿泊施設名		収容人数 推定	宿泊者数		宿泊者数 外国人	宿泊者数 合計	回答率	外国人 宿泊割合
			日本人					
浅草地区	台東区ホテル旅館協会 加盟店	オークホテル	402,087	498,029	102,001	631,284	67.5%	21.1%
		スカイコート浅草						
		テサンイン浅草						
		ツクバホテル						
		ドリーミン浅草						
		ホテルカワセ						
		ホテルサンルート浅草						
		ホテルニュー魚眼荘						
		ホテルBWイン浅草						
		ホテルミュー						
		ホテルユニゾ浅草						
		ホテル衣						
		ホテル浅草三河屋						
		ホテル栃木屋本店						
		ホテル雷門						
		ホテルニューアオキ						
		喜久屋旅館						
		助六の宿貞千代						
		浅草セントラルホテル						
		浅草ビスタホテル						
		浅草ビューホテル						
		浅草プラザホテル						
		東横イン浅草千束						
		栃木屋ホテル						
	旅館加茂川							
	旅館三河屋本店							
	旅館浅草指月							
	ベルモントホテル							
	ホテルマーキュリー							
	ホテル蔵前							
	ホテル柳橋							
	非加盟店	ホテルニュー栃木屋	95,942	498,029	31,254	631,284	67.5%	21.1%
ニューホテルバンドン								
一富士旅館								
浅草旅館 東海荘								
ホテル京阪浅草								
ビジネスホテル旬の市								
スマイルホテル浅草								
サクラホステル浅草								
SOHO浅草								

※収容人数はシングル洋室（もしくは一人部屋和室）を1人、その他の客室を2人として計算してあるが無回答の施設は収容人員に含めていないので、区内宿泊施設、実収容人員より少ない。

※外国人宿泊者数割合は施設ごとに大きく異なり、数字は当該地区での平均である。

### ③ 年間宿泊人数の推計

宿泊者1人あたりの平均宿泊数から、年間宿泊人数の実人数を推計する。本調査では、宿泊者の平均宿泊数を求めるため観光庁『宿泊旅行統計調査報告（平成22年10～12月）』を参考として、宿泊者一人あたりの平均宿泊数を求めた<sup>4</sup>。

日本人の平均宿泊数は1.48泊、外国人の平均宿泊数は1.78泊である（表4.19）。

<sup>4</sup>引用：観光庁『宿泊旅行統計調査報告（平成22年10～12月）』、台東区部分を抜粋した。なお、同調査は、区内220の宿泊施設（レジャーホテル、簡易宿泊所を含む）のうち、51施設からの回答を基にしている。

表 4.19 平均宿泊数の算出 『出典：観光庁宿泊旅行統計調査（平成 22 年 10～12 月）』

① 延べ宿泊者数（参考第 6 表）	380,832 [人泊]
② 実宿泊者数（参考第 7 表）	251,487 [人泊]
③ 外国人延べ宿泊者数（参考第 8 表）	51,699 [人泊]
④ 外国人実宿泊者数（参考第 9 表）	29,047 [人泊]
日本人平均宿泊数 (③-①) ÷ (④-②)	1.48 泊
外国人平均宿泊数 ③÷④	1.78 泊

日本人の年間宿泊人数（実人数）は、以下の通り推計される。

※上野地区 822,759 [人泊] ÷ 1.48 [泊] = 555,918 [人]

※浅草地区 737,820 [人泊] ÷ 1.48 [泊] = 498,527 [人]

④ 年間宿泊観光客数の推計

上記の年間宿泊人数は、実人数の推計値であり、区内に宿泊し、上野・浅草地区を訪れた観光客も含まれている。したがって、「平常時の観光客数」と「二重カウント」を考慮する。

上野地区の来訪者のなかで宿泊を伴う回答者の 27.7% (=5÷18) が台東区内を宿泊先として選択している（表 4-20 再掲）。同様に浅草地区は、来訪者のなかで宿泊を伴う回答者の 23.5% (=23÷98) が台東区内を宿泊先として選択している。

表 4.20 来訪者の宿泊先（市区町村別集計）（再掲）

① 上野地区

宿泊地	前泊	後泊	計
台東区	3	2	5
その他特別区	5	1	6
多摩地域	1	1	2
千葉県	2	1	3
うち浦安市			0
神奈川県		1	1
埼玉県	1		1
1都3県外	2		2
不明・車中泊			0
宿泊者サンプル計	14	6	

② 浅草地区

宿泊地	前泊	後泊	計
台東区	19	9	28
その他特別区	港区	4	14
	江東区	1	8
	中央区	2	8
	豊島区	2	6
	渋谷区	5	5
	品川区	4	4
	その他	3	10
多摩地域	1	3	4
千葉県	9	5	14
うち浦安市	4	1	5
神奈川県	5	3	8
埼玉県	2		2
1都3県外	2		2
不明・車中泊	7	1	8
宿泊者サンプル計	92	34	

本調査では、「上野・浅草各地区の宿泊者実数」と Step1 で推計した「上野・浅草各地区における平常時の総入込数」が重複する割合について、上記で算出した「上野・浅草各地区における宿泊を伴う来訪者が台東区内を宿泊先として選択する割合」であると定義し、日本人の台東区内年間宿泊人数（実数）は下記の通りである。

上野地区・年間宿泊実人数(但し、観光目的以外の来訪目的を含む):

$$555,918 \text{ 人(宿泊者実数)} \times (1 - 0.277) = 40 \text{ 万 } 1,928 \text{ 人}$$

浅草地区・年間宿泊人数(但し、観光目的以外の来訪目的を含む):

$$498,527 \text{ 人(宿泊者実数)} \times (1 - 0.235) = 38 \text{ 万 } 1,373 \text{ 人}$$

さらに、平成 18 年に実施した「台東区観光客マーケット調査」では、宿泊客全体に占める観光客の割合を 33.54%として推計している。この割合を用いて上野・浅草両地区における年間の宿泊観光客数（日本人）を推計する。すなわち、台東区の宿泊施設に宿泊し、かつ、台東区内を最終目的地としてない、言い換えると台東区外からの宿泊観光客数である。

上野地区・年間宿泊観光客数(観光目的で宿泊し、帰宅も含め台東区外へ向かう):

$$40 \text{ 万 } 1,928 \text{ 人} \times 33.54\% = 134,806 \text{ 人}$$

浅草地区・年間宿泊観光客数(観光目的で宿泊し、帰宅も含め台東区外へ向かう):

$$38 \text{ 万 } 1,373 \text{ 人} \times 33.54\% = 127,912 \text{ 人}$$

#### 4-5. 訪日外国人観光客に関する分析

##### (1) 台東区内における外国人旅行者の行動

###### ① 調査方法

外国人旅行者が台東区内で実際にとった行動を把握することを目的に、前回調査（平成20年）では、台東区内の宿泊施設を利用した外国人旅行者を対象に表4.21に示した要領で「外国人旅行者調査」を実施した。本報告書においても、同調査から得られたデータを引き続き活用することから、改めて概要を整理する。

表 4.21 外国人旅行者への調査実施概要（平成20年）

配布・回収方法	区内の宿泊施設に対し、旅行者へのアンケート調査票配布・回収を依頼。回答は旅行者が直接行った。  以下の宿泊施設から有効回答が得られた。 【上野地区アンケート調査票】澤の屋、山中旅館、上野ファーストホテル、ニュー上野ホテル 【浅草地区アンケート調査票】入谷アーバンホテル、ツクバホテル
調査期間	平成20年12月～平成21年1月
使用言語	日本語・英語・韓国語・中国語（簡体・繁体）
有効回答数	44回答（日本人17回答を除く）

表 4.22 外国人旅行者調査の調査項目と内容

調査項目	調査内容
①各地区の来訪目的	上野・浅草各地区を来訪した主要目的
②地区でとった行動	各地区でとった行動（行動別に有無を質問） 飲食・買物に関する特別な意図の有無 →「行きたかった店」で「買ったかった（飲食したかった）商品」を購入したか否か
③1日の行動	一日の行動を開始した場所から上野・浅草地区を訪れるまでの行動 上野・浅草地区を出発して、一日の最後に到着した場所までの行動
④外出について	台東区内で立寄った観光施設 一年間で台東区と上野・浅草地区に訪れた回数 上野・浅草地区に関する情報源 今回の外出（おでかけ）に関する消費額
⑤外出の同行者	今回の外出（おでかけ）の同行者の種類および人数
⑥各地区の印象・評価	上野・浅草各地区の印象・総合評価
⑦個人属性	回答者の性別、年代、職業、通勤通学先の住所、居住地の住所

② 調査対象とした活動目的

外国人旅行者調査も、前節までの調査と同様に、上野・浅草両地区で旅行者（回答者）が実際にとった行動を把握した。なお、有効回答が得られた宿泊施設と、配布したアンケート調査票の地区（上野・浅草）との対応関係については、表 4.23 に示している。

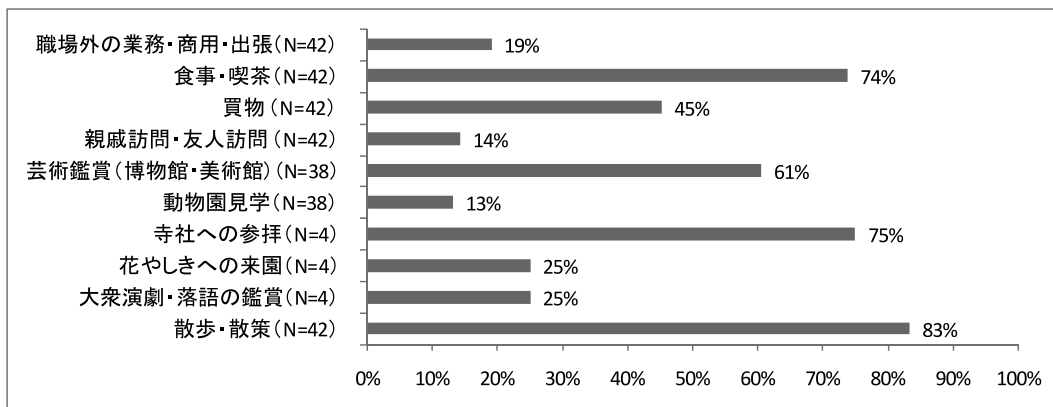
表 4.23 来街者調査で把握した活動

① 職場外の業務・商用・出張
② 食事・喫茶
③ 買物
④ 芸術鑑賞【上野のみ】
⑤ 動物園見学【上野のみ】
⑥ 寺社参拝【浅草のみ】
⑦ 大衆演劇・落語の鑑賞【浅草のみ】
⑧ 花やしき来園【浅草のみ】
⑨ 散歩・散策
⑩ その他私用（通院・塾・習い事）

③ 活動目的別実施率

外国人旅行者が上野・浅草地区で実際にとった行動について、活動目的別に実施率（各目的の有効回答者に占める「おこなった」と回答した者の割合）を示した（図 4.11）。なお、両地区で共通している活動目的（食事・喫茶など）は、合算して集計している。実施率は、①散歩・散策（83%）、②寺社への参拝（75%）、③食事・喫茶（74%）、④芸術鑑賞（61%）である。

図 4.11 外国人旅行者の活動実施率



(2) 外国人旅行者に占める観光者割合

① 観光目的・業務目的の旅行

外国人旅行者（上野・浅草地区の合算）の旅行目的が「観光目的」もしくは「業務目的」であるかを集計した（表 4.24）。

外国人旅行者（回答者）の 78.6%が「観光目的」の来訪である（主観的な観光意図を持っている）と回答した（業務目的以外に観光を行う「兼観光<sup>5</sup>」も含む）。

表 4.24 観光目的（主観的な観光意図）・業務目的の旅行の実施率

外国人旅行者		上野	浅草	合計	割合	
観光目的	業務目的					
○	○	4	1	5	11.9%	78.6%
○	×	26	2	28	66.7%	
×	○	2	1	3	7.1%	21.4%
×	×	6	0	6	14.3%	

② 観光目的として捉えられる行動の実施率

観光目的として捉えられる行動として、本章の「Step1」で述べた平常時における年間観光客数の推計と同様に、本調査では以下の通り定義する。

**観光の定義**

観光施設への入場をした来訪者 または（かつ）、「楽しみのための行動」（自分で「行きたいと思った店」で「買いたい（飲食したい）もの」を購入した）を実施した来訪者 または（かつ）、浅草地区に限り、寺社参拝を行った来訪者。

加えて、主観的な観光意図（表 4.24 で観光目的の欄に○印）をもつ旅行者が上記の行動を実施しているか否かについて集計した。

上野地区では、観光施設への入場や「意図ある消費行動（自身の行きたい店で、買いたい（飲食したい）ものを購入する）」を実施していないのに、「観光目的」と回答した外国人旅行者が 30 人中 5 人を占めている。一方で、観光と捉えられる行動を実施しても「観光」と主観的に意図していない外国人旅行者も同数存在した。

浅草地区では、観光施設への入場や「意図ある消費行動」を実施していないのに「観光目的」と回答した旅行者は、国籍を問わず皆無であった。

以上により、全体としては、主観的な観光意図（観光目的と回答すること）と、本調査で観光と捉えた行動の実施が概ね合致しており、外国人旅行者（台東区宿泊者）が「観光」と捉えられる行動を実施している割合は、表 4.24 の主観的な観光意図の割合を用いて、以下のように推計する。上野・浅草地区に宿泊する外国人旅行者が「観光」と捉えられる行動を実施している割合は 78.6%である。

<sup>5</sup> 「兼観光」とは仕事兼観光で、旅行目的は業務と認識される場合が多い。仕事の合間（空白時間）に、本来の目的である業務以外に行う観光行動である。

(3)年間外国人観光客数の推計

① 推計フロー

年間外国人観光客数の推計フローは（図 4.12）、

Step 1：台東区内の宿泊施設における外国人の年間延べ宿泊数を集計・推計。

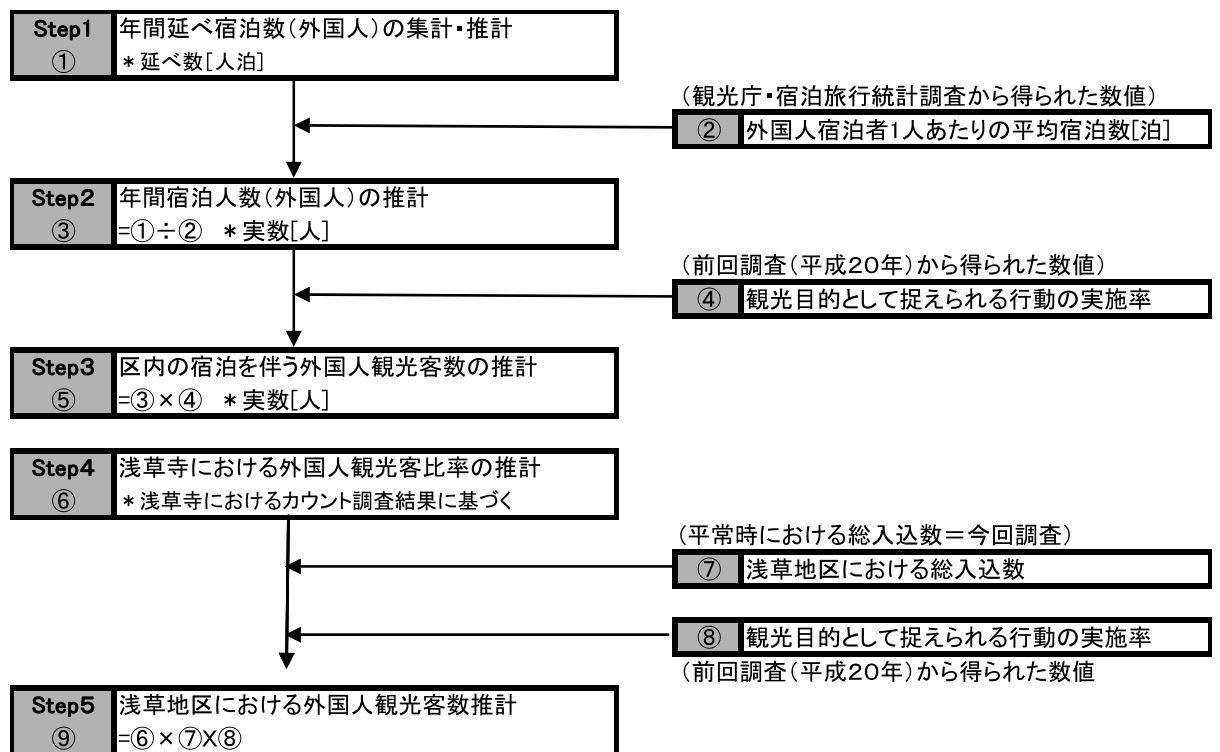
Step 2：観光庁『宿泊旅行統計調査（平成 22 年 10～12 月）』により、外国人宿泊者 1 人あたりの平均宿泊数は、Step 1 で得た延べ宿泊数を上記の平均宿泊数で割ることで年間宿泊人数の実数が推計をする。

Step 3：外国人旅行者調査（前回調査（平成 20 年）で実施したものを適用）結果をもとに、の観光目的として捉えられる行動の実施率（78.6%）を乗じて、区内の宿泊を伴う年間外国人観光客数を推計。

Step 4：Step 1 で推計した「平常時における年間観光客数」のなかに含まれる外国人観光客の比率を推計する。浅草寺で実施した歩行者カウント調査を、外国人が全数に占める割合を求める。

Step 5：その結果から、浅草地区における外国人観光客数を推計する。

図 4.12 外国人観光客数の推計フロー



② 区内の宿泊を伴う年間外国人観光客数の推計

外国人の年間延べ宿泊数の推計した結果、宿泊者に占める外国人の割合は、前回（平成 20 年）調査よりも増加しており、上野地区は 25.2%（前回 21.1%）、浅草地区は 21.1%（前回 16.1%）である。（表 4.25）

表 4.25.1 平成 22 年（1～12 月）宿泊客数（再掲）

宿泊施設名		収容人数 推定	宿泊者数 日本人	宿泊者数 外国人	宿泊者数 合計	回答率	外国人 宿泊割合		
上野地区	ホテルセレッソ	5,139	187,525	65,592	815,070	74.1%	25.2%		
	水月ホテル鷗外荘								
	きぬやホテル								
	ホテル観月荘								
	上野ファーストシティホテル								
	ビジネスホテル福寿								
	ホテル丸谷								
	ホテル松本								
	ホテル福屋								
	ホテルニューウエノ								
	ホテルアスティル上野								
	ツーリストホテル								
	上野東金屋ホテル								
	ビジネスホテル山百合								
	ビジネスホテルやなぎや								
	上野ターミナルホテル								
	NEW伊豆ホテル								
	ホテルニュー東北								
	チサンホテル上野								
	入谷アーバンホテル								
	ホテルパークサイド								
	アネックス勝太郎旅館								
	桜旅館								
	澤の屋旅館								
	山中旅館								
	旅館勝太郎								
	小松屋旅館								
	きぬや本館								
	きぬやホテル								
	ホテル小松								
	ツクバホテル								
	三井ガーデンホテル上野							411,379	130,572
	ココ・グラン上野不忍								
Cube Hotel Ueno Express									
ホテルレインボー									
ホテルサードニックス上野									
ウィークリーマンション東上									
スーパーホテル上野・御徒町									
ヴィラフォンテヌ上野									
サットンプレイスホテル上野									
ホテルニューグリーン御徒町									
ホテルパインヒル上野									
入谷ステーションホテル									
ホテルリブマックス東上野									
ホテル朱鷺									
ホテルサンターガス上野店									
御徒町ステーションホテル									
オークホテル									
ホテルシャーウッド									
カンデオホテルズ上野公園									
ホテルブーゲンビリア三ノ輪									
スーパーホテルJ R上野入谷									
ニューパークホテル									



表 4.25.2 平成 22 年（1～12 月）宿泊客数（再掲）

宿泊施設名		収容人数 推定	宿泊者数 日本人		宿泊者数 外国人		宿泊者数 合計	回答率	外国人 宿泊割合
浅草地区	台東区ホテル旅館協会 加盟店	オークホテル	402,087	498,029	102,001	133,255	631,284	67.5%	21.1%
		スカイコート浅草							
		チサンイン浅草							
		ツクバホテル							
		ドーミーイン浅草							
		ホテルカワセ							
		ホテルサンルート浅草							
		ホテルニュー魚眼荘							
		ホテルBWイン浅草							
		ホテルミュー							
		ホテルユニゾ浅草							
		ホテル衣							
		ホテル浅草三河屋							
		ホテル栃木屋本店							
		ホテル雷門							
		ホテルニューアオキ							
		喜久屋旅館							
		助六の宿貞千代							
		浅草セントラルホテル							
		浅草ビスタホテル							
		浅草ビューホテル							
		浅草プラザホテル							
		東横イン浅草千束							
		栃木屋ホテル							
		旅館加茂川							
		旅館三河屋本店							
		旅館浅草指月							
	ベルモントホテル								
	ホテルマーキュリー								
	ホテル蔵前								
	ホテル柳橋								
	非加盟店	ホテルニュー栃木屋	95,942	498,029	102,001	133,255	631,284	67.5%	21.1%
ニューホテルバンドン									
一富士旅館									
浅草旅館 東海荘									
ホテル京阪浅草									
ビジネスホテル旬の市									
スマイルホテル浅草									
SOHO浅草									

以上の集計より、未回収の宿泊施設を含めた外国人の年間延べ宿泊数は、回収率に基づき以下の通り推計される。

上野地区 205,405 [人泊] ÷ 0.741 = 277,199 [人泊]

浅草地区 133,255 [人泊] ÷ 0.675 = 197,414 [人泊]

外国人の年間宿泊者数から推計した、外国人の平均宿泊数は1.78泊である（表4.26）。

表4.26 平均宿泊数の算出

① 外国人延べ宿泊者数	51,699 [人泊]
② 外国人延べ宿泊者数	29,047 [人泊]
<b>外国人平均宿泊数 ①÷②</b>	<b>1.78 泊</b>

外国人の年間宿泊人数(実人数)は;

上野地区 277,199 人泊 ÷ 1.78 泊 = 155,729 人

浅草地区 197,414 人泊 ÷ 1.78 泊 = 110,906 人

観光と捉えられる行動を行った外国人旅行者の割合(78.6%)を、上記の年間宿泊人数(実数)に乘じ、区内の宿泊を伴う年間外国人観光客数を推計する。

外国人観光客年間宿泊人数(実人数);

上野地区 155,729 人 × 78.6% = 122,402 人

浅草地区 110,906 人 × 78.6% = 87,172 人

### ③ 浅草寺における外国人観光客数の推計

平成22年10月4日(水)の9時15分から17時15分の8時間、浅草寺宝蔵門を中心に歩行者カウント調査を実施した。カウント調査手法は、前回調査(平成20年)と同様であり、日本人をも含めた全数のカウントを行う傍ら、外国人を「中国」「韓国」「欧米」に分けてそれぞれ首都大学東京に在籍する留学生の目視によるカウントをした。**結果は全数に占める外国人の割合は17.7%**となり、前回調査(平成21年2月13日(金)の9~17時に実施)の15.2%と比較して上昇した。

表4.27 浅草寺宝蔵門付近における歩行者カウント調査(平成22年10月4日)

時間帯	全数	中国	韓国	欧米
09:15-10:15	1,069	222	53	6
10:15-11:15	1,477	323	19	82
11:15-12:15	1,611	195	10	123
12:15-13:15	1,945	123	29	150
13:15-14:15	1,961	118	21	107
14:14-15:15	1,888	99	36	122
15:15-16:15	1,533	38	34	91
16:15-17:15	1,184	106	28	108
計	12,668	1,224	230	789
<b>全数に占める割合</b>		<b>9.7%</b>	<b>1.8%</b>	<b>6.2%</b>
		<b>17.7%</b>		

平成 22 年度の調査では、台東区全区への外国人観光客推計のため「上野・浅草の年間歩行者交通量」に、上記の外国人歩行者比率を乗ずることによって、台東区全体の年間外国人総入込数を推計する。1,601万1,694人（浅草地区年間歩行者交通量）+1,228万6,273人（上野地区年間歩行者交通量）÷0.950（浅草地区の総入込数に占める浅草寺の入場者数割合）×0.177（外国人割合）≒527万2,358人

上記の年間外国人総入込数に、区内の宿泊を伴う外国人旅行者が「観光」と捉えられる行動を実施している割合（78.6%）を乗じることで、台東区内における年間外国人観光客数を推計する。

### 台東区内の年間外国人観光客数の推計

527万2,358人（年間外国人総入込数）×0.786（観光行動を伴う割合）

= 414万4,073人

（これは内数であって、台東区、年間入込総観光客数に含んでいる推計である）

#### ④訪日外国人観光客訪問国割合の推計（参考値）

当該の調査項目は、社会環境によって大きく変動する項目である。調査は上野・浅草で4日間の約150の有効回答を得たが、この数は母数（来訪した外国人観光客数）と比較すると十分とは言えない。よって当該項目は参考値としてのみ本報告書に掲載する。

